

### 1 現状と課題

■脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期の療養が必要になった場合

○自宅で療養を続けたい「そう思う」・・・32.2% 「そう思わない」・・・38.2%  
「わからない」・・・29%

○自宅で療養を続けたいが実現が難しい・・・54.7%

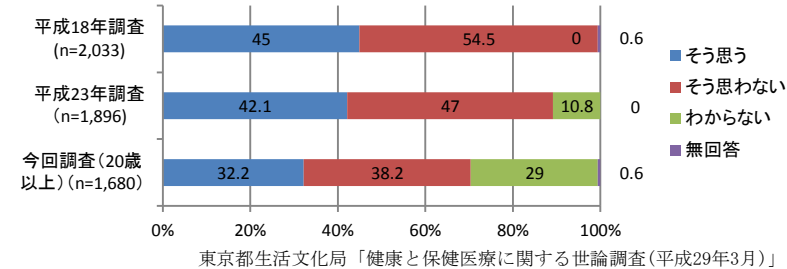
(理由)「家族に負担をかけるから」、「急に病状が変わった時の対応が不安だから」、「在宅医療や在宅介護でどのようなケアが受けられるのか分からないから」など

■在宅療養の希望について過去との比較

平成23年比で「そう思う」が10ポイント、「そう思わない」が9ポイントそれぞれ減少。

「わからない」が19ポイント増加。

⇒ **在宅療養に関する都民の理解促進が必要**



(注1)平成23年調査までは「スポーツ・運動と保健医療に関する世論調査」  
(注2)平成23年調査までの質問文は「脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期の療養が必要になった場合、あなたは、理想として自宅で療養を続けたいと思いますか。」  
(注3)「わからない」は平成18年調査はなし

### 2 制作目的

○在宅療養に関する都民の理解促進

住民に身近な地域の中で、動画を活用した普及啓発を行うことで、都民に実際の在宅療養に関する具体的なイメージを持ってもらい、在宅療養に関する知識と理解を深める。

### 3 対象及び活用例

対象	活用場所	活用方法
都民への普及啓発	地域の町内会、自治会、老人クラブ等の地域団体でのイベント等	○区市町村が、地域団体等と連携して行う出張講座等で活用 ○地域団体等が行うイベント等での利用
	区市町村が実施する市民公開講座等	○区市町村が講演会等で活用
患者・家族への説明	在宅療養支援窓口、地域包括支援センター	○職員が、患者や家族に対する説明で補助資料として活用
	医療機関や介護事業所等	○在宅療養の相談を受けたかかりつけ医、ケアマネジャー、医療機関、地域の訪問看護師などが、患者や家族の説明で補助資料として活用

## 4 内容

### 内容のポイント

- 在宅療養の基本的な説明  
在宅医や訪問看護師ケアマネジャー等の在宅療養を支える多職種の紹介、相談窓口、在宅療養に係る費用のこと 等
- 在宅療養の段階（在宅療養開始～療養時～看取り）ごとの訪問診療や訪問看護等の事例紹介
- 緊急時や病状変化時の対応
- 在宅療養中の患者・家族のインタビュー、在宅で看取った家族のインタビューなど

### <在宅療養を希望しているが、難しいと思う理由>

（「健康と保健医療に関する世論調査（平成29年3月）」東京都生活文化局）

- 家族に負担をかけるから...74.1%
- 急に病状が変わったとき不安だから...44.3%
- 在宅医療や在宅介護でどのようなケアが受けられるのか分からないから...26.5%
- 看護や介護をしてくれる家族がいないから...19.0%
- お金がかかるから...16.2%

### 動画の長さ

- ・地域団体等の出前講座等で活用することを想定し、約30分程度
- ・なお、患者や家族からの相談などで活用する際に、理解度や相談内容に応じて利用できるよう、上記の内容ごとに動画を分割（チャプター作成）

## 5 想定スケジュール

時期	事項
7月24日	●普及啓発部会<第1回>
8月上旬～9月上旬	動画内容原稿の作成※委託を予定
9月上旬	映像制作会社と委託契約 (台本作成、動画撮影・編集、DVD作成を委託)
10月	●普及啓発部会<第2回>（仮） (原稿を基に作成された絵コンテ(台本)を確認)
11月	動画撮影開始
平成31年2月～3月	映像編集、完成、DVD納品
4月以降	区市町村等へDVD提供、都HP等での公開